

熊退教協

発行所
熊本市中央区九品寺1丁目11-4
熊本県退教協職員等協議会
代372-1500
編集者・発行人
田川 勝也
印刷
コロニー印刷
☎353-1291(代)
No. 100

地区会長・女性代表者の会 兼 第四十七回熊退教協定期大会報告

熊退教協事務局 桑本 謙

去る二〇二〇年六月十七日、熊本県教育会館において、全十一地区からのご参加を得て、熊退教協の第四十七回定期大会を開催することができました。

今年度は何と云っても、新型コロナウイルス感染症防止を勘案して、ソーシャルディスタンス等の三密防止、消毒や検温、マスク装着の徹底、合唱の禁止を受けて組合歌の斉唱もなし、時間短縮措置等々、異例すくめの対応を余儀なくされ、さらに集会の開催ができないということと、今年度に限り、地区会長と女性代表者の会を持って、定期大会を兼ねるという対応をさせていただきます。何とか開催の運びとなりました。

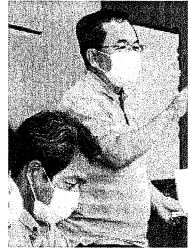
前半、田川会長挨拶の後、来賓としてお一人だけご参加いただいた今年度原教組委員長に就任された杉田委員長にご挨拶をいただきました。

その後、議長に、熊本地区藤本さん、上益城地区若本さんを選出し、昨年度の事業報告と今年度の事業計画等々を協議していただきました。

今年度から委員長を務めることになりました。杉田正幸です。

私は77年に学校事務職員として採用され、その後組織内議員として本溪市議会議員を4期16年、さらに教職員共済熊本県事務所長を10年務め、二〇一九年三月に定年退職しました。昨秋に予期もしない県教組委員長就任の要請があり、最終的には引き受けた次第です。

しかし、就任当初から新型コロナウイルスの影響で、諸会議は軒並み中止。6月13日の県教組定期大会は前例のない書面議決方式に



第一号議案から第六号議案まで協議され、すべて原案通り可決されました。その中でも特に議論となった三

①毎年開催され会員の皆様を楽しみにしておられる「友好の会」については、昨年度の延期を受けて今年度も、城北地区で引き続き担当していただけることとなりました。皆様との再会を楽しみにしております。

②近年、会員の減少に伴う財政面の改善を検討し、今年九月に記念すべき第一〇〇号となります。「熊退教協ニュース」の紙面をB4四面から、A3二面へと刷新します。読みやすく皆様と共に作り上げる愛される紙面づくりに努力します。

いま、熊教組は

熊本県教職員組合 委員長 杉田正幸



せざるを得ませんでした。今、現場の先生方は保護者や地域からいろんな要求に加え新型コロナウイルス感染防止対策で消毒作業などにも追われています。

一方、6月県議会で義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する条例の一部改正があり、「服務を監督する教育委員会は、教育職員が正規の勤務時間及びそれ以外の時間にお

年に結成五〇周年を迎えます。その節目の五〇周年に記念誌を作成し、組織や運動の一層の強化・発展をめざします。以上、今後の熊退教協の方向性を論議して終了しました。

百号達成！

絆を大切に

熊本県退職教職員等連絡協議会会長 田川 勝也



謹んで豪雨災害お見舞申し上げます。七月四日の豪雨で人吉球磨川の水が氾濫し、大被害が発生しました。球磨川の水が氾濫して家をのり込み、道路を寸断し、山崩を誘起し、想像を絶する状況となりました。この豪雨で亡くなられた方65名、住宅被害は全壊を含め9,000棟、避難されている方14,000名(7・31現在)。謹んで哀悼の意を表すと共に被災された方々の復旧を心よりお祈り致します。

この条例の趣旨や県教委が定める「熊本県学校における働き方改革推進プラン」を基に健康で長く働き続けられる労働環境を作る、働き方改革の境を、これからのために労働条件について当局と交渉できる労働組合加入を一人でも多くの未組織者に呼びかけていくことが熊教組の最大の課題です。

打撃を受けました。連日被災地の状況が報道されています。復興にどれだけの資金、労力が必要か想像もできません。熊退教協としては新型コロナウイルス感染症の状況、年齢構成等を考慮し復旧支援を組織的に取り組むことは困難です。会員の自主的なボランティア活動への参加、義援金等での支援の協力をお願い致します。2016年の熊本地震から徐々に復興の道筋をたどり始めた中、さらなる自然の猛威にさらされました。地球温暖化対策が待ったなしの課題となってきました。

広報部からひと言

広報部一同

会員の皆様のおかげで100号到達です。ご協力心から感謝申し上げます。年三回、発行する熊退教協ニュースですが、発行回としては、①第一回編集会議②第二回編集会議③原稿執筆依頼④割付会議⑤原稿校正⑥印刷⑦各支部発送等、三か月の期間がかかります。年三回ですので九か月の時間が必要です。

また、どんな記事掲載するか、内容に問題はないか、記事が集まるか等心配の種は尽きません。また、一番の心配の種は、会員の皆様に喜んで読んでいただけているのだろうか？です。

広報部としては、脈々と発行された「熊退教協ニュース」であり、三十年に及ぶ熊退教協の財産だと思えます。あとに続くものとして、これからの会員の皆さんと共に200号を目指して頑張るぞ！

去る七月四日未明に起きました熊本県南を中心とする集中豪雨は、私たちの予想をはるかに超えるかつて経験したことのない未曾有の大被害をもたらしました。被害に遭われたすべての皆様によりお見舞い申し上げます。被災地では、その後も雨が続き、厳しい避難生活が続いていると聞いています。くれぐれも早い生活再建ができますことを願ってやみません。

二〇二〇年七月豪雨への対応について

事務局 桑本 謙

八月十五日現在で確認が取れているのは、全壊・全水没二件、床上浸水十一件、床下浸水十件等々となっていますが、いまだに確認できない方もおられます。

今後の取り組みについては役員会等での協議を経て、県下各地の会員の皆様にお知らせする予定です。どうぞご協力をいただきます。

- 今年の役員・委員です
- 会長 田川 勝也(宇城)
 - 副会長 工藤 征子(熊本)
 - 村上市博(菊池)
 - 牛嶋武良子(八代)
 - 桑本 謙(熊本)
 - 田崎 典夫(熊本)
 - 未定(熊本)
 - 事務局次長 上杉謙一郎(県教組)
 - 名島 弘和(八代)
 - 内田 久子(熊本)
 - 杉田 正幸(県教組)
 - 東 敬一(熊本)
 - 緒方 恭子(上益城)
 - 寺尾 禎子(宇城)
 - 大森美奈子(熊本)
 - 牧 昭夫(菊池)
 - 森 優次(城北)
 - 早田 豊一(菊池)

